



東中学校と中央中学校の比較

【東中学校】

【中央中学校】

13学級

学級数

9学級

※平成23年度（特別支援学級除く。）

※ 入間川地区全体として学校規模の適正化を目指すなかで、東中については今後も適正規模（12～18学級）の確保が見込まれている。中央中については現在は適正規模を下回る状態だが、生徒数は概ね増加傾向で推移する見通しとなっている。

23教室

普通教室数

14教室

※普通教室及び特別教室等のうち普通教室に転用可能な教室の総数

※ 中央中は教室数が少ないため、統合校となる場合には学区編成の際に留意を要する。また、沢地区など人口増が今後予想される地域もあり、統合後に学区を再編成せざるをえない事態も懸念される。

昭和39年

校舎建設年

昭和60年

※ 東中の校舎は築50年近く経過しており、老朽化が進みつつある。

未済

耐震工事

新耐震基準

※新耐震基準は昭和56年以降に建築確認を受けた建物に対して適用

※ 東中で耐震補強工事（ ls 値0.7以上）を実施した場合、約7.0億円の費用が見込まれる（ ls 値0.3未満の棟に関しては耐震スリット工事を施工済）。

未済

冷暖房工事

済

※ 東中で除湿温度保持工事（冷暖房工事）を実施した場合、約3.5億円の費用が見込まれる。中央中は平成16年に工事を実施しているため、解体した場合には国庫補助金の一部返納が生じる。

872㎡

体育館

1,672㎡

※ 東中は中央中の半分程度の面積しか有していない。

16,452㎡

グラウンド

17,347㎡

※ グラウンドの広さに大きな違いはない。

《論 点 整 理》

	主 な 意 見 等
東中の廃止	◆ 老朽度、耐震及び冷暖房の状況をみれば、廃止の対象は東中しかない。 ◆ 老朽化した東中に 7 億円をかけて耐震補強工事をして、校舎がどの程度もつのか疑問である。 ◆ 多額の費用がかかる東中の建替えでは、行財政改革に逆行することになる。 ◆ 耐震等の観点から東中を廃止にすべきと考える人は多いと思うし、跡地利用に関しては、改修せずに転用した方が財政的には効率がいい。 ◆ 東中の敷地にかかる都市計画道路の狭山市駅加佐志線が整備されれば、市街地としての発展が期待できる。
中央中の廃止	◆ 東中は適正規模が確保されている。 ◆ 東中の生徒数が増えて入間川中、中央中に分かれた経緯から、東中に統合すれば、元に戻るということで角も立たない。 ◆ 東中を建替えて、教室数の少ない中央中を廃校にすべきだ。 ◆ 統合後に沢地区周辺の人口が増えた場合、中央中の少ない教室数では学区を再編成せざるを得ない可能性を含むが、東中の教室数ならば、それらの問題はクリアできる。 ◆ 中央中は耐震性も十分で冷暖房も整備されているので、跡地利用の際にも団体等を誘致しやすい。 ◆ 中央中は駅から近いので、跡地利用において駅の持つ力を十分に発揮できる。
そ の 他	◆ 建替えではなく既存施設を活用するという基本方針をおさえておかないと、議論が前に進まない。 ◆ 統廃合の対象校はあくまでも教育上の観点から検討すべきで、都市計画道路や跡地利用の観点から決めるべきものではない。 ◆ 学校の先生や PTA の役員にとっては、普通は自分の学校は残してもらいたいと考えるわけで、教育委員会としての考えを示してもらわない限りは何も決まらない。